

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-121943

(43) 公開日 平成9年(1997)5月13日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 6 B 7/06		7456-3K	A 4 6 B 7/06	
13/08		7456-3K	13/08	

審査請求 未請求 請求項の数 6 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-317625

(22) 出願日 平成7年(1995)10月30日

(71) 出願人 594178398

菅原 雅利

千葉県松戸市久保平賀274番地の1 ラミ

ーユ松戸ハイライズ2-201号

(72) 発明者 菅原 雅利

千葉県松戸市久保平賀274番地の1 ラミ

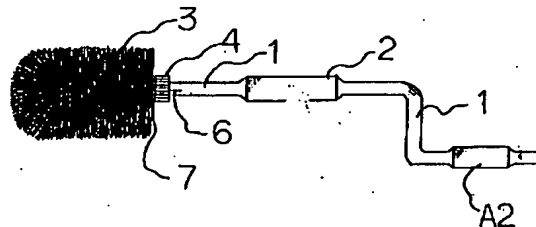
ーユ松戸ハイライズ2-201号

(54) 【発明の名称】 回転ブラシ

(57) 【要約】

【目的】 ブラシを手で回転させることにより洗浄部分全体を平均的に洗浄するようにした。

【構成】 本体についている中空軸と中空軸を、両手でにぎり回転させて洗うのを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体の先に、洗浄用のブラシを設け、前記ブラシを回転させるため、前記本体の後部に角度をつけ曲げ、前記本体を回転させる時に両手に抵抗がかからないように、両手でつかむ位置に、保持部と回転握持部を設け、前記ブラシの回転どきにする、水撥ねを避けるため、水撥ね防止部を設け、設けられた前記水撥ね防止部は前記本体と前記ブラシが回転してもいっしょに回転しないように、前記本体と前記ブラシとの間に中空軸でとめられている、さらにブラシ終了後、前記水撥ね防止部が収縮カバーとなる回転ブラシ。

【請求項2】 前記本体の先に、洗浄するための前記ブラシの材質をゴム又はスポンジなどの他の材質とした請求項1記載の回転ブラシ。

【請求項3】 前記本体の、洗浄するための前記ブラシが材質の異なったブラシと交換できる請求項1記載の回転ブラシ。

【請求項4】 前記本体と前記ブラシを両手で回転させるため後部に角度をつけた上と下に保持部と回転握持部を設け、作業どきの、手の疲れを少しでもいやすために、保持部に補助手を取り付け可能にした請求項1記載の回転ブラシ。

【請求項5】 前記本体と前記ブラシが回転している時に、水撥ね防止部を着脱自在とした請求項1記載の回転ブラシ。

【請求項6】 前記ブラシは前記本体より取り外しできるよう本体の先に挿入口とネジ部と止め具からなる請求項1記載の回転ブラシ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、両手でブラシを回転させ回転力で、いままで力をいれて洗浄していた、自動車などのホイールを上下、左右、奥を一度にらくに洗浄でき回転ブラシに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、自動車などのホイールは、タイヤなどといっしょに洗浄していたが、ブラシのあたった所はきれいになったがホイールなどの細かな所などはなかなかきれいにならなかった、ホイールにも色々な種類があり大変であった、ブラシのなかで細く棒状のものがあ

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記従来技術には次のような課題があった。

(イ) 自動車などのアルミホイールは、種類やホイールの内部の形状などが異なった物が多く、一本のブラシでは奥まで洗浄できなかった。

(ロ) ホイールには細かな所が多く奥の細かな部分の汚れをおとすのが、手に力が入り大変だった。

(ハ) 洗浄する時、水などを使うので、ブラシから水撥ねがしょうじ大変であった。

本考案は、これらの欠点を解消するためにつくられたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため洗浄用ブラシが取り付けられる本体を設け、尚かつブラシを回転させるため、本体の一部をクランク状にし、且つ本体を回転させる時本体を回す手に抵抗がかからないよう、両手の握り部分に保持部を設ける、又洗浄箇所が、低い位置なので同じ姿勢での作業がつづくと手首に負担がかかりたいへんなので、握り部分の保持部に手首をらくにさせるよう、補助具を取り付け可能にし又洗浄する素材によっては、傷など付きやすい物があり、洗浄するブラシの種類を選び本体に取り付け可能にし、又回転洗浄してる時に、水撥ね防止部を設け且つ水撥ね防止部は、洗浄終了後、収納カバーになるのを特徴とした。本発明は、回転ブラシである。

【0005】

【作用】細かな箇所を洗浄するためのブラシ(3)がついた、クランク状の本体(1)からなり、手で回転させる時抵抗にならないよう、握り手部分に保持部(2)又は回転握持部(A2)を設け、且つ素材によってブラシ(3)を交換できるよう、ブラシ(3)と本体(1)の間に挿入口(9)を設け、且つ同じ姿勢での作業を緩和させるために、握り手部分の保持部(2)に取り外し可能な補助手(5)を設け、作業を楽にさせた。

【0006】

【発明の実施の形態】以下図面に基いて本発明の実施例について、どのように構成されているかを、その作用と共に説明する。図1は、本発明の第1実施例の正面図で、図2は、この実施例の本体正面図である、図2の本体(1)を基本として図1の回転ブラシがなりたっている、両手で簡単に楽に洗浄できる回転ブラシである。

【0007】従って、図2で示した、クランク状に構成された本体(1)を片手でささえ他方の手で回転握持部A2を回転させるさい、本体(1)と保持部(2)摩擦抵抗がかからないように、保持部(2)を設け、この保持部(2)は中空状軸によって構成されている、断面図である、洗浄時間が長くなる、洗浄では、保持部(2)を押さえている手がつらくなるのを、防ぐために、図5で示す補助手(5)を設け、且つ図5で示す補助手(5)には、保持部(2)に自由に取り付け、取り外しができるよう、補助手(5)に取り付け部(10)を設けた。

【0008】図2で示す、本体(1)には、洗浄する品物により、交換可能なブラシ(3)を取り付ける事の出来るよう、切り裂き(6)を設け、且つブラシ(3)

を本体（１）に差し入れるため、本体（１）の先には、挿入口（９）を設け、又差し込まれたブラシ（３）を安定又は、固定するため本体（１）の先にネジ部（８）を設け、ネジ部（８）の上にネジ部（８）を閉める、止め具（４）を配置した。図４は、図２で示す、本体（１）に、ブラシ（３）部分の拡大図である。

【０００９】図６は、ブラシ（３）の断面図である、ブラシ（３）には、本体（１）に差し込みできるよう、挿着部（１４）とブラシ（３）を本体（１）に安定させるため固定板（７）を挿着部（１４）とブラシ（３）との間に設けた。図６で示すブラシ（３）の、素材としては、ゴム（１５）又はスポンジ（１６）その他の素材を使用する事もできる。

【００１０】図７は、回転ブラシに、水撥ね防止部（１２）又は、収縮カバー（１３）を取り付けた断面図である、図８は、水撥ね防止部（１２）又は、収縮カバー（１３）の断面図でカバー本体は、収縮する素材からなり、カバーを取り付けるには、本体（１）上のブラシ（３）の上から、挿着部（１４）に通し、図４で示す差し込み口（９）と図６で示す、固定板（７）とで留め置く、且つ本体（１）を回転させたい、カバー本体が本体（１）と一緒に回転しないように、カバーには、Ｂ中空軸（１１）をもうけた。

【００１１】図９は、収縮カバー（１３）の使用断面図である。

【００１２】本体（１）を回転させるためにクランク状にした、本体（１）のクランクの部分を組み立てできるように、してもよい。

【考案の効果】本考案を使用することにより、いままでブラシで上下、左右、奥など細かな所にブラシが入りにくかったが、ブラシを回転させることですみずみまでブラシが入り、自動車用ホイールなども楽に洗浄できるよ*

＊うになった、本考案品は、多方面にわたり使用できると思う。

【図面の簡単な説明】

【図１】本考案の斜視図である。

【図２】本考案の本体断面図である。

【図３】本考案の中空軸の断面図である。

【図４】本考案のブラシの取り付け部分の拡大図である。

【図５】本考案の補助具の斜視図である。

【図６】本考案のブラシの断面図である。

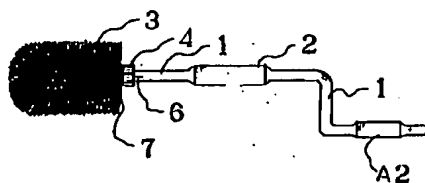
【図７】本考案の水撥ね防止及び収縮カバーの断面図である。

【図８】本発明の使用斜視図である。

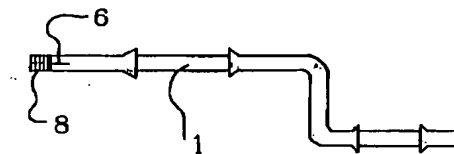
【符号の説明】

- (１) 本体
- (２) 保持部
- (Ａ２) 回転握持部
- (３) ブラシ
- (４) 止め具
- (５) 補助手
- (６) 切り裂き
- (７) 固定盤
- (８) ネジ部
- (９) 挿入口
- (１０) 取り付け部
- (１１) Ｂ中空軸
- (１２) 水撥ね防止部
- (１３) 収縮カバー
- (１４) 挿着部
- (１５) ゴム
- (１６) スポンジ

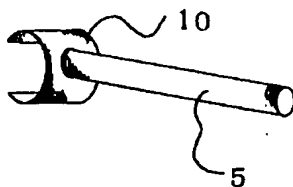
【図１】



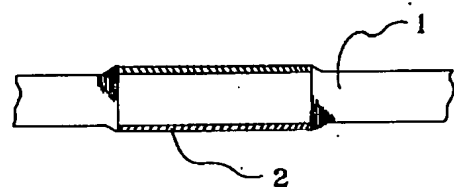
【図２】



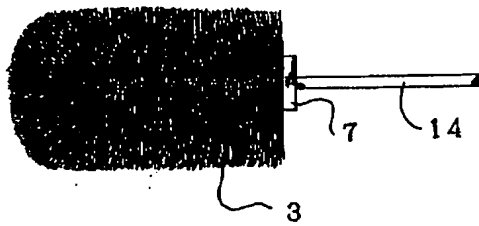
【図５】



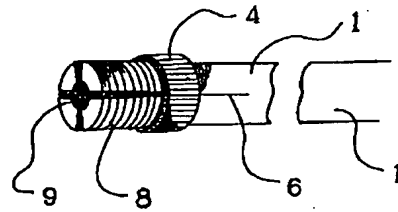
【図３】



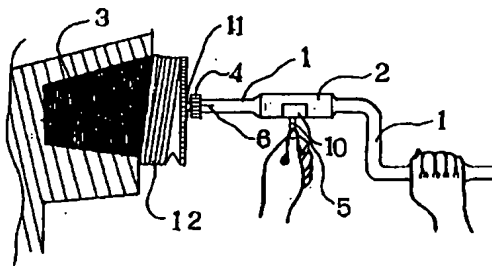
【図 6】



【図 4】



【図 9】



【手続補正書】

【提出日】平成 8 年 4 月 3 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 実施例を示す正面図である。

【図 2】本発明の本体を示す正面図である。

【図 3】本発明の本体と保持部の関係を一部断面で示す平面図である。

【図 4】本発明の本体ネジ部及び切り裂き付近を示す斜視図である。

【図 5】本発明の補助手を示す斜視図である。

【図 6】本発明のブラシを示す正面図である。

【図 7】本発明の回転ブラシに水はね防止部を設けた状態の一部断面を示す正面図である。

【図 8】本発明の水はね防止部の断面図である。

【図 9】本発明の水はね防止部の取付けて、使用状態を示す正面図である。

【符号の説明】

- 1 本体
- 2 保持部
- A 2 回転握持部
- 3 ブラシ
- 4 止め具
- 5 補助手
- 6 切り裂き
- 7 固定板
- 8 ネジ部
- 9 挿入口
- 10 取付け部
- 11 B 中空軸
- 12 水はね防止部
- 14 挿着部

【手続補正 2】

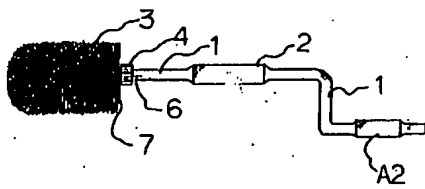
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

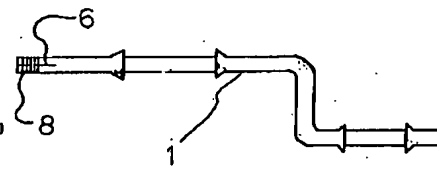
【補正方法】変更

【補正内容】

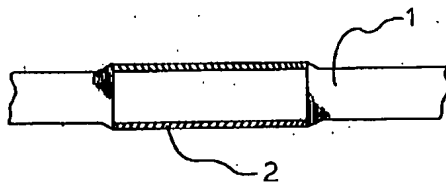
【図1】



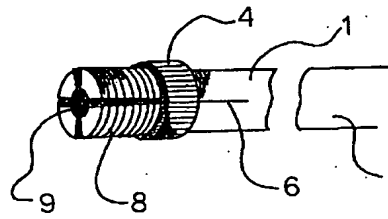
【図2】



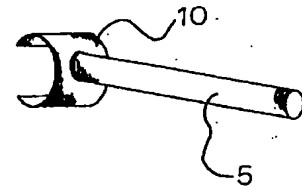
【図3】



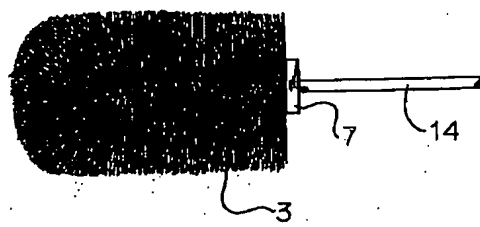
【図4】



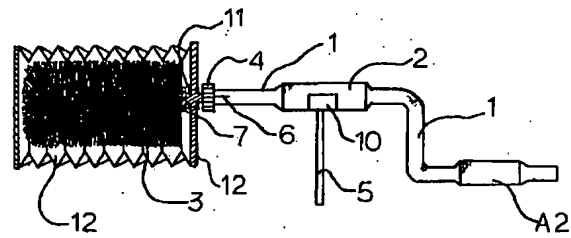
【図5】



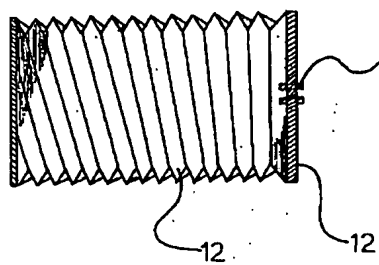
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

